

1. 実況上の着目点

- ① 南西諸島から日本の南に前線がのびていて、東シナ海にある500hPa 5580m付近のトラフに対応して、先島諸島の下層風収束域で対流雲が活発化。周辺で局地的に非常に激しい雨を解析して、前線近傍では発雷を検知。
- ② カムチャツカの東の低気圧と日本の東の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、北日本ではやや強い風が吹いていて、3m程度の高波を観測。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、トラフの接近に伴って北上し、6日夜には日本の南で、前線上に低気圧が発生。この低気圧は、7日には伊豆諸島近海を北東に進む。上層トラフが浅まって低気圧に追い付くため低気圧はそれほど発達しないが、低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。沖縄地方では6日は、伊豆諸島では7日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。前線の北側でも下層暖湿気の影響で対流雲の発達があるため、奄美地方でも雷を伴った激しい雨の可能性があるので留意。また、この前線と低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて、波が高くなる所がある。沖縄地方では6日は、強風や高波に注意。
- ② 1項②の日本の東の高気圧は次第に日本から遠ざかる。6日夜には前線を伴う別の低気圧が沿海州付近に発生して、7日にかけて宗谷海峡付近を通って千島近海に進む。この低気圧と前線の周辺で気圧の傾きが大きい状態が続くため、北日本では強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北日本では7日にかけて強風や高波に注意。
- ③ 8日には、東進してきた深いトラフが日本海から西日本に達し、低気圧が日本海から北日本に達する見込み。また、前線を伴った別の低気圧が東シナ海から南西諸島に達する。北日本の低気圧に伴い、東日本では風が強く、波が高くなる所がある。東日本では、強風、高波に注意。ただし、低気圧の発達程度によっては、強風や高波の範囲が広がる可能性がある点に留意。また、南北の低気圧や前線周辺の下層暖湿気の影響でそれぞれ大気の状態が不安定となる所がある。北・東日本や南西諸島では落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

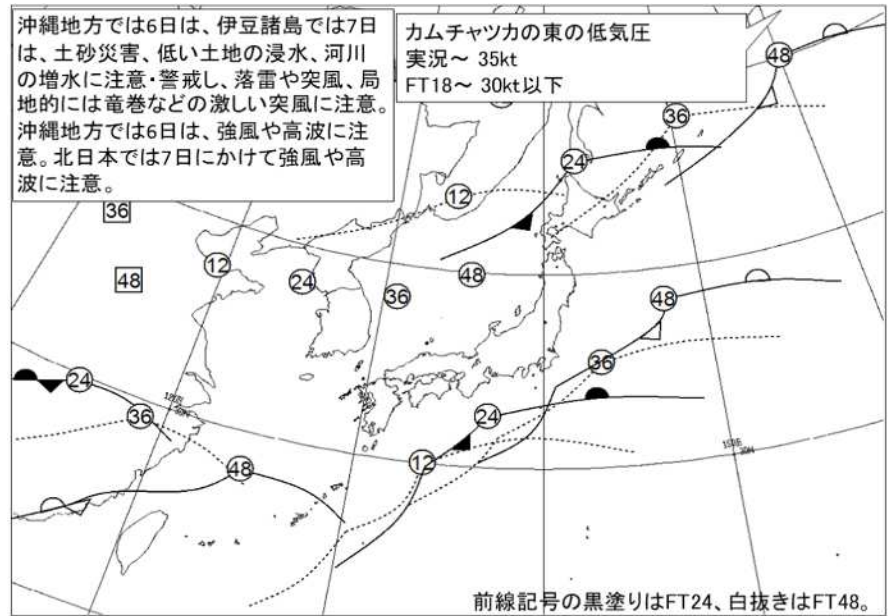
3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項

①の前線や前線上に発生する低気圧の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

① 雨量(18時から24時間) : 多い所 (100mm以上) はない。② 波浪(明日まで) : 北海道4、東北3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図